

調査期間 2012年12月1日
～2014年8月31日

所在地 厚木市酒井

時代 近代・近世・中世・奈良・平安
古墳・弥生

調査原因 新東名高速道路（戸田・跡掘）
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
（中日本高速道路事業）

秦浜線No.42～No.46 鉄塔移設工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査（東京電力事業）

遺跡位置 厚木市南東部、小田急線本厚木駅から、約3.6km南に位置する。相模川右岸の沖積
微高地に立地する。



主な調査成果

主に確認されている遺構として、各時期における溝状遺構が挙げられます。弥生時代、古墳時代、奈良時代の溝状遺構は主に南北方向を、中世、近世では主に東西方向を軸としています。中世、近世の溝状遺構は断面形が逆台形を呈するなどしっかりとした掘り込みがあり、人の手で掘られた遺構と考えられます。一方、弥生時代や古墳時代の溝状遺構は掘り込みがはっきりとせず、断面形が広いレンズ状を呈することから、自然に形成された流路の可能性が考えられます。ただし、弥生時代の溝状遺構からは、遺物や杭列が検出されており、もともと自然流路であったところに人の手を加えて利用していたのではないかと推測しています。



中世溝状遺構



弥生時代杭列



弥生時代溝状遺構



弥生時代溝状遺構遺物出土状況